

### 3 平成 28 年度学校評価

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価
				具体的な手立て	評価の観点	達成状況
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立と社会参加をめざし、キャリア教育の視点から小学部から高等部までの教育内容を見直し、系統性のある教育課程を再編成し、授業改善に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科等の授業で取り上げている学習内容と目標を各学部において整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の略案収集を行い、各学部における教育課程検討会議において、系統だった学習内容と目標の設定を行う。その際、学習指導要領の各教科における授業構成と段階に準拠した整理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容系列表の作成に向けた前段階として、各学部における系統だった学習内容・目標の設定に取り組めたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して、学部内の会議等で系統性という視点を持った授業検討の推進を行った。個別教育計画の4項目に関連する各学部の指導内容について、学部間の系統性という視点を持って見直しを行った。その中から特に作業・職業の指導内容についての検討・整理を行い継続中である。</li> </ul>
2	(幼児・児童・)生徒指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒一人ひとりの人権を尊重し、個性に応じた支援・指導を組織的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒の障害特性を理解し、人権を尊重した適切で丁寧な支援・指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の児童・生徒への丁寧な関わりの意識づけとして「さん付け呼称」など取り組みのスタンダードを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面を切り分けることなく、「さん付け呼称」が行えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権を意識した「さん付け呼称」は学習場面では意識して取り組んでいる。日常生活の場面ではまだ定着には至らず、生徒間においてもお互いを尊重しあうコミュニケーションのとり方にはさらに指導の積み重ねは必要である。</li> <li>全10回の初転任一般研修会、全6回のミニ研修会すべての研修会を実施することができた。</li> </ul>

課題・改善方策等	学校関係者評価	学校評価 成果と課題・改善方策等										
<ul style="list-style-type: none"> <li>学部内の系統性という視点を持つての授業作りへの意識が高まるような手立てを引き続き検討し、取り組んでいく。また、作業・職業及びそれ以外の教科についても指導内容の系統性を踏まえての検討・整理が行えるよう、校内研究との連携を模索していく。</li> </ul>	<p>保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相模原養護学校は小学部から中学部、高等部まで系統性のある教育活動を行っていると思いますか。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>十分達成できた</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>ある程度達成できた</td> <td>34.3%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>49.1%</td> </tr> <tr> <td>課題がある</td> <td>3.7%</td> </tr> <tr> <td>達成できていない</td> <td>1.9%</td> </tr> </table>	十分達成できた	11.1%	ある程度達成できた	34.3%	わからない	49.1%	課題がある	3.7%	達成できていない	1.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部では、作業・職業的な学習における研究活動を通して授業改善を行った。児童・生徒の実態把握により児童・生徒が主体的に活動できるためのグループ編成や身につけさせたい力、学習内容等について検討を進めた。</li> <li>授業改善という視点はもちろんのこと、小・中・高が同じ学習内容について学習指導要領の各教科における授業構成と段階に準拠した整理を行う等、組織的に取り組むことが必要である。</li> </ul>
十分達成できた	11.1%											
ある程度達成できた	34.3%											
わからない	49.1%											
課題がある	3.7%											
達成できていない	1.9%											
<ul style="list-style-type: none"> <li>「さん付け呼称」について引き続き取り組み、人権を意識して相手のことも自分のことも大切にしながら社会生活を営む力をつける学習を組み立てる。(高等部)</li> </ul>	<p>学校関係者評価より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「さん付け呼称」の取組は、「個としての尊重」としても大切である。保護者としては大切に対応されているという感じを受け、良いと思う。呼称は習慣でもあるので、新学期から確実なスタートが切れると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒への「さん付け呼称」については、年間を通して教職員への意識付けを図り、各学部・室においても重点的な取組として位置づけたことにより授業場面での児童・生徒への「さん付け呼称」は定着してきた。</li> <li>「さん付け呼称」は、年齢、性別、場面を切り分けることなく実践することを共通理解する。</li> <li>さらに、児童・生徒へも「さん付け呼称」の取組みを広げ、児童・生徒同士がお互いの人権を尊重しあう関係作りを進めていく。その際、児童・生徒指導の重点的な取組として各学部・学年の指導計画に位置づける。</li> </ul>										

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価
				具体的な手立て	評価の観点	達成状況
3	進路指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、社会で豊かに生きることがをめざし、一人ひとりのニーズに応じた進路指導・支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者へ進路情報の提供を積極的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路説明会や進路先の見学会を小学部から高等部まで実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路説明会と進路先見学会を小学部から高等部までを対象に実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に小中学部保護者を対象としたアンケートを実施し、進路説明会における内容のニーズを把握した。1月に実施した小中学部保護者対象の進路説明会ではアンケートを受けて保護者の不安や疑問に応えた。</li> </ul>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある子どもがいきいきと暮らすことができるよう、家庭・地域・関係機関との連携を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、地域、関係機関と連携した研修・イベント等を開催し、特別支援教育の理解を進めるとともに、連携を深めてセンター的機能の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、地域、関係機関と連携したイベントを開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携したイベントを通して、地域が主催するイベントにおいて、障害のある子どもが安心して参加できる環境や支援の方策を伝えることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏のつどいでは、地域に学校を開放し、学校と地域、相互のふれあいを促進することをねらいに実施し、外部から196名の参加があった。</li> <li>・学校へ行こう週間では本校、分教室への多くの見学者があった。アンケートでは校内支援の環境や視覚的支援等に対する一定の評価を得ることができた。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての職員が、教育環境の変化や課題に機動的に対応できる学校組織作りを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末研究のプロジェクトチームを立ち上げ、障害をサポートする支援ツールとして活用する研究を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPad等ICT機器を活用した教材・教具の収集、開発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を支援ツールとして活用した研究授業が実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPadプロジェクトチームでは、月に1回程度の会合、また3回の研修会を実施し、研究を進めることができた。</li> </ul>

課題・改善方策等	学校関係者評価	学校評価 成果と課題・改善方策等
<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が少なかったこと等もあり、今後実施する日程などについて学年行事と合わせるなどの工夫が必要である。</li> </ul>	<p>保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相模原養護学校は児童・生徒の将来の社会生活、進路について十分な情報提供を行っていると思いますか。</li> </ul> <p>十分達成できた 11.1% ある程度達成できた 50.0% わからない 26.9% 課題がある 5.6% 達成できていない 6.5%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学部保護者対象の進路説明会では、事前のアンケートを行い、ニーズを捉えた上で保護者の不安や疑問等に答えた。高等部3年生の保護者対象の説明会では、外部から講師を招き、卒業後の生活にかかわる制度について情報提供を行った。</li> <li>進路説明会については、学年行事等と日程を合わせるなどして多くの保護者が参加しやすい工夫を行う。進路先の見学は、学部・学年で見学先のニーズが異なるため、小規模の見学会の回数を増やすなどして企画を工夫していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>夏のつどいにおいて地域自治会との連携を模索したが実現しなかった。</li> <li>近隣住民が特別支援学校を理解する機会として、興味・関心が持てる企画を模索する。</li> </ul>	<p>学校関係者評価より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校が地域との連携を進める際、地域に対する日頃の「感謝」と地域への「貢献」をキーワードに仕掛けを作ることが有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏のつどいや学校へ行こう週間、学習発表会等、機会を捉えて地域に向けた情報発信を行ったが、参加者は学校関係者や関係機関がほとんどであった。障害のある子どもたちが、居住する地域でその障害特性を理解されていきいきと生活するためには関係者以外の方々支援教育についての理解を進めることが不可欠である。</li> <li>近隣の方々に養護学校に足を運んでもらい、学校の教育活動や障害のある児童・生徒を知ってもらう機会を可能な限り増やす。</li> <li>その取り掛かりのひとつとして登下校時の見守りボランティアさんと高等部職業班との定期的な交流を企画し、日頃の感謝の気持ちを伝えるとともに特別支援教育への理解を促進する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>2年計画の最終年度となるため、さらに研究を推進し、授業での活用を図っていく。</li> </ul>	<p>記述アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うちの子どもは、パソコンなどの活用はまだないのですが、もし活用するのであれば、発育にとって良いタイミングではじめて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>iPadプロジェクトチームを立ち上げ、ICT活用の情報共有を行ってきた。年間3回の研修会を実施し、基本的な使用方法、ビデオ編集、データの保存、呼び出しをテーマに学んだ。プロジェクトチームとして、iPadの使用規定を作成し、周知した。</li> <li>iPadプロジェクトチームとしてのまとめの1年になるので、授業実践に活用できる事例の収集や具体的な教材作りに取り組む必要がある。</li> </ul>